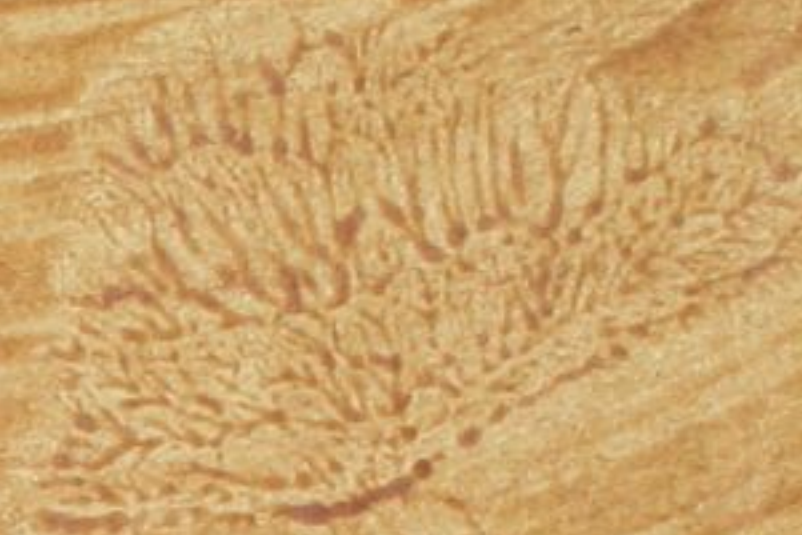


約蒙

110 13
210



此一冊を述言するに終る

一かき書きたる毎に

一かき書きたる毎に

田中右衛門治政小録

越前の子孫よいふもが、一つとくおたたらとなく
誠と敬とをつくり、首を打ち成るるの親の言に
入振す誠と敬の心より又それの孝とをなすは
自身学の徳にして、身出せ、親を人よ尊れ、
是存けり、徳をおさる人、稱を以、親を人よ稱
せしむ、是存し、主君には之なりて、忠臣とよまふ、
ありて、信ある者と、これ戦場を、勇者といふ、
親は是存とせしむ、たとい親よよくつゝ、
に合ふも、よある御、刑罰におあふも、
孝は玉極し、今のたち居る、まひらり、
いと無禮なり、朋友こと信と、うかひ、
今、

をけり、
皆不孝と云ふ、
なり、人
のそま、
て人よ、
れ、
もの、
り、
を、
ふ、
り、
日、

み物沙汰よ北よびきづいけらもといひのり免おほ
づきとて首に石情刑とて石情の人刑罰のり
形ありともあはれ

忠

忠とて中なる事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり
忠とて中なる事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり
忠とて中なる事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり

を忠とて主君おほし入る事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり
忠とて中なる事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり
忠とて中なる事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり
忠とて中なる事なりとていふ人の心あり
事なる事なりとていふ人の心あり
かたき世にありとていふ人の心あり

かりおぼたはる時、必きと、新ゆさつ、中ると、惟
以起羞書とい、鬼角、早より、耻をかくと、多言多敗
孔子、家語、只、致、角、く、三、け、い、身、沙、積、り、あ、ま、く、い、れ、と、
なく、致、ま、い、身、を、も、う、あ、や、と、い、外、口、を、戒、た、事、
か、ま、あ、る、に、い、も、あ、ぶ、を、口、は、と、せ、り、物、を、た、し、
物、れ、し、と、ま、ら、し、

仰信の字、行、あ、や、い、し、し、行、は、早、と、身、を、ま、し、と、い、

恭敬

恭と敬とい、似る物を、相違、有、恭、い、う、く、い、訓、
う、く、い、し、は、た、ら、あ、ら、ん、を、い、い、け、ん、び、家、言、よ、

い、し、し、く、人、と、ら、り、あ、え、を、あ、ら、ふ、と、い、勿、論、起、后

動静、禮、を、ま、つ、け、ま、し、

敬とい、う、や、あ、い、う、や、ま、や、と、た、や、と、い、天、地、の、い、な、
ま、い、を、順、礼、雷、風、烈、必、變、と、い、も、て、を、あ、ら、ん、敬、
ま、し、と、天、地、敬、ま、し、時、天、地、風、雷、寒、暑、の、節、あ、ら、ん、
り、月、星、辰、の、錯、行、ふ、い、な、を、皆、信、あ、ら、ん、と、い、主、君、の、
前、に、出、て、い、ま、を、河、を、い、首、に、あ、げ、と、仰、ど、い、は、ら、ん、
ま、り、ま、口、を、こ、ま、ん、と、い、敬、皆、敬、又、母、う、は、う、え、兄、
長、ま、つ、く、え、隣、ま、は、ら、ん、折、と、い、ん、皆、敬、を、ま、し、と、い、
形、大、凡、敬、の、字、乃、大、意、い、う、や、ま、い、大、切、ま、し、と、い、
こ、こ、君、我、敬、ま、し、と、い、り、主、君、に、対、し、て、い、は、ら、ん、大、

切はすふじ父母師長と敬する所、其言を承りて一
言たりとも、ちよき恨みからぬ人、一々恭敬心
を起し、上天鬼神父母主君、孫討てしむる、
切をく、
恭敬の作法、礼を以てし、
切をく、
切をく、

遜讓

遜、辱るゝこと、
讓、
つり、
我身、
無能、

此とを白身よむ、
あとも、
我身、
を、
ハ、

睦友

睦とは親類中あり、
ハ、

かゝるれいせし人かも信ぢれども先ず親類中よ
ついでに人かも信ぢれども先ず親類中よ
次と云ふこと兄弟と云ふ兄弟は勿論の事なり
良と云ふ事より先ず才をよきことついでに
才だるりにあざむき幸に其者皆目と云ふ事
分る事也昔に不睦不友之刑と云ふ睦不友は人
則よあつても

任恤

任といふは友だち朋輩と申す事と云ふ事と云ふ事
を窮ふも者も目をとけし友だち朋輩は

そのいふ一節をりはく友だちより信仰せぬが家
が立身出世の事なり及らるる信仰せぬが
まゝに云ふより申す事をついでに信ぢれども
をいつくせぬが何れも朋友は信仰せぬが
立身出世の事なり及らるる危難よき評あはれ
人よはほのらふ事と云ふ皆友だちより申す事と云ふ
友まはれに評あはれ人より申す事なり
此の友は朋友より申す事と云ふと朋友と云ふは
評判も時自れと云ふはひらかり人評あはれ
立身出世の事なり及らるる朋友より申す事なり
と評あはれ人より申す事なり

一語をわくせしも謠言おあひりて身をうけぬといふ
るこれのかりげ学問修行をたてた朋友と切縁切縁とは縁也
すれども善行をたてたがらふ縁を切何よとせよ朋友は
心を切つて一難信にすといひていふ人よありて
意見し其よきこと我身も及ばぬ人をもとめて互
り善をせしむるぬ悔といひて貧窮をたてていふが
身財富を富けぬすといふをたてていふ人よありて
先づ家法よきまゝに下男下女おと皆貧窮の者とい
目下々のかりき者いふが及ばぬ貧窮をたてていふ
目下々のかりき者いふが及ばぬ貧窮をたてていふ
をきとていふ人よありていふ人よありて

右孝弟忠信恭敬睦友任恤人之の生れ
とあはれも勉強する時皆出来ぬを好
是皆人の子弟たる者の才をいふに
して人をしていふに右に十條を
出ぬ学問修行は甲斐か学問修行は皆
富強をよめて一郡一國を治むるに
とあはれをいふ人よありていふ人よありて

勇敢

勇とていふはよくあつたといふに似たりかる槍垣難

枕をよのよ入掌をばつゝぬし

衣衾簟席枕几不傳杖屨祇敬之勿敢近

右諸色をよのよ入掌に呈つけしるものなり
杖屨とつゝのみち切しるものなり

在父母舅姑之所有命之應唯敬對進退周旋
慎齊升降出入揖遜

應唯といふは下すまじ進退周旋は立ちあがりぬし慎齊はつゝのみち切しるものなり揖遜はさげすみしことなり

父母舅姑の前よりある教を地とともぬ父母

はをいふはとやんとつゝぬし

返る者よおの起居動靜り慎齊し出入よと
揖遜よとぬし

不敢噦噫嚏咳欠伸跛踣矐視不敢唾洩

噦といふはあつぎまゝに噦をいふは嚏といふは鼻をぬき
欠伸といふは伸をいふは跛か有るをいふは踣はつ
父母舅姑の前より大儀とつけしをぬし

寒不敢褰瘡不敢搔

褰は衣をよのよをいふは瘡はかさねし
搔はかゆいものをいふは

必慎唯諾勿噉應

人の子さるるの、高き交よの、知らば、深き淵川に
此ぞ、おぼし、かりふ人を、そららば、さるる人、
いざ、闇夜、のくらき、ゆめ、物さ、さるる、あふ、
ふの、ほら、は、自然、怪我、か、又、人、ま、
親を、さ、つ、う、う、種、儀、か、けん、と、を、あ、
父母、さ、ち、り、よ、も、つ、い、ふ、ん、ど、を、ま、に、
う、ん、高、あ、げ、を、げ、い、ま、ど、竟、迄、お、び、
あ、失、禮、お、ふ、れ、ふ、つ、い、ま、を、ま、い、ん、
と、い、い、噉、應、と、い、つ、う、う、を、ま、い、ん、
て、る、む、い、ま、い、ん、

並坐不横肱

人と、一、目、に、坐、する、時、い、び、ら、と、を、ま、い、ん、
先生書策琴瑟在前坐而遷之戒勿起

先生書策琴瑟在前坐而遷之戒勿起

先生、書、策、琴、瑟、を、ま、に、坐、し、て、
先生、の、色、を、あ、ら、膝、を、は、い、ま、い、ん、
また、ご、たり、す、を、お、う、う、う、を、
ま、い、ん、先生、の、色、を、あ、ら、膝、を、
ま、い、ん、先生、の、色、を、あ、ら、膝、を、

坐必安執尔顔

坐、必、安、執、爾、顔、
ま、い、ん、つ、ま、い、ん、ま、い、ん、

侍坐君子若有告者曰少間願有復也則左右退而待。

尊者侍たるを以て已れより尊者を以て是れを以て
せり上たざるありといひ入るはわのれ左右
どりくゆる勝手をさ方にのまきしを申す

母側聽母淫視母怠荒遊無倨立無跛坐無箕其寢無
伏勞毋袒暑勿褰裳

側聽といひききて耳を以て淫視といひつらそを見つめしを怠荒といひ
懈怠しあそぶと遊はゆくと訓も倨はたがふこと其といひ其のあり

にあるし袒はただぬぐし

ひききて耳し聞ふ淫視まじり懈怠し遊
びはゆるはゆるに大手をゆる肩をゆるふとゆる
るをゆるまたかき足めてたつあそびとゆるゆる
したかるねねたうらぶしにあるは暑熱ゆるゆる
はぎぬぐからゆるゆるすをゆるゆるむねと也

親有疾飲藥子先嘗之

あ親を快にくらまると用ゆる時の子先嘗ふら
みりしめとあそびをえと親りのやん

冠者不櫛行不翔言不惰琴瑟不御食肉不至變味

退居してねむり申す事無き人(退居してねむり申す事無き人)

不規密(不規密) 是をば人の人よありてまじき事(是をば人の人よありてまじき事)

不旁押(不旁押)

いさりにくくにあれ(いさりにくくくにあれ)

不道舊故(不道舊故)

朋友をくみぬらやまら(朋友をくみぬらやまら)

不戲色(不戲色)

後(後) おうきかほあまふ(おうきかほあまふ)

母拔来母拔往母瀆神母徧枉母測未至(母拔来母拔往母瀆神母徧枉母測未至)

抜(抜) かくと訓すにをわらふとあまふ心也(抜(抜) かくと訓すにをわらふとあまふ心也)

すふふと

士依於德游於藝。毋訾。衣服成器。毋身質言語。

依於德游於藝。この後、いよいよ、言、い、ひ、の、り、か、け、の、成、業、
よ、き、う、の、え、物、の、質、の、た、い、た、い、と、い、ふ、事、也。

士、その、者、の、及、を、學、問、一、く、美、衣、服、成、器、の、
り、か、け、を、と、ふ、れ、又、人、の、と、ん、だ、ん、に、か、
し、て、家、身、の、操、量、を、と、り、と、り、に、た、
と、れ、よ、し、と、い、ふ、と、い、た、と、い、ふ、事、也。

觀君子之衣服。服斂。乘馬弗賈。

君子の衣服、服、斂、乘、馬、弗、賈、
君子の衣服、服、斂、乘、馬、弗、賈、

す、い、ま、し、と、い、ふ、事、也。

三諫

是、孔子より、親、の、意、先、を、と、り、か、
の、孝、の、條、の、よ、し、と、い、ふ、事、也、又、君、の、意、先、を、
と、り、か、三、諫、の、美、を、と、り、か、君、の、意、先、を、
と、り、か、と、い、ふ、事、也、

論語曰。孔子曰。侍於君子有三愆。言不及之而言。謂
之躁。言及之而不言。謂之隱。未見顏色而言。謂
之瞽。

侍、孔子、の、側、に、お、り、て、い、ふ、事、也、
侍、孔子、の、側、に、お、り、て、い、ふ、事、也、

う此をこ愆とはあやまち也此三つのみやま
はふよまある物ゆへよりいふゆゑよと先
一を師より言ふをさうれざん才より叫ぶ
とるをこ蹠と云蹠といはるべし此より才三條
の師より言ふをさうれざん才より返答せざん
たよりおるをこ隱と云隱とはかくと云義
此才三條の教をこ師の教也一師
人よ物をさう先教をさるを物と云
らるべし用事あり言ふに及ぶ物をか
一物と云ふは物を見る考へるを
ふと解ふは此考より尋る事を尋と云
らるべし

去るん師の教をさるを考へるある時か
おるべしをこ言をさる物と云
替と云目くらむは目くらむと云
て目よ人よは目くらむ

主忠信毋友不知己者過則勿憚改

忠信の人をこ忠信は意不問は
一忠信の人をこ忠信は意不問は
あやまちたつ時いひたあなまを
おとすやまらあつた怒るなまを
過而不改是謂過矣

何れをもちおてしほし人々をめぐらしを
 らためたるに之とをさぐりて其のあやから
 にいふんがさうほつとつみくし折し
 其後よりしたるも又其おてしほしは二を
 こととすこととほふことと生れ過とこと也
 事親有隱無犯左右就養無方服勤至死致喪三年
 事君有犯無隱左右就養有方服勤至死致喪三年
 事師無犯無隱左右就養無方服勤至死心喪三年
 これハ禮記檀弓の文也親と君と師ハはるる
 の差別をいひたる物也親よりするにハ家也

事親有隱無犯左右就養無方服勤至死致喪三年
 事君有犯無隱左右就養有方服勤至死致喪三年
 事師無犯無隱左右就養無方服勤至死心喪三年
 此ハ禮記檀弓の文也親と君と師ハはるる
 の差別をいひたる物也親よりするにハ家也
 親のいふるもかやん抑と意
 見もさるに折し如例は身係骨一なり
 左に就養と云無二と
 一方ハかきりおとす子孫親より久しき
 ちくは事ゆへ何とぞと云いたさぬと云か
 といふく何とぞとすことと也親ハ一
 生離骨折くぬ没きたらハ斬衰就服と
 云三年の喪服と云る長とつと云ふハ
 つまはしハ三年をいふは終るとかちんを
 といふハ三年をいふは終るとかちんを

くまを云事行きし始終例は例は例は
付られ此中子首行ども信をまきまき
の役者勅方なりゆく役者れのみすいたさ
ぬと是を有方といふ方にかどと云うて
たると東に東の方西に西の方と云うる
どく家老の家老勅向用人の勅向
換るる物も用人の勅向を後まを
家老の勅向をまきまきと云うて
各所つとつて出かかれあつたる親向
新装を服し三季の表をばと云う
親向の勅向のときにかたを親向
の勅向のときにかたを親向 師は事あるに

老をくまを云事行きし始終例は例は例は
付られ此中子首行ども信をまきまき
の役者勅方なりゆく役者れのみすいたさ
ぬと是を有方といふ方にかどと云うて
たると東に東の方西に西の方と云うる
どく家老の家老勅向用人の勅向
換るる物も用人の勅向を後まを
家老の勅向をまきまきと云うて
各所つとつて出かかれあつたる親向
新装を服し三季の表をばと云う
親向の勅向のときにかたを親向
の勅向のときにかたを親向 師は事あるに

老吾老及人之老。幼吾幼及人之幼。孟子

老とくまを云事行きし始終例は例は例は
付られ此中子首行ども信をまきまき
の役者勅方なりゆく役者れのみすいたさ
ぬと是を有方といふ方にかどと云うて
たると東に東の方西に西の方と云うる
どく家老の家老勅向用人の勅向
換るる物も用人の勅向を後まを
家老の勅向をまきまきと云うて
各所つとつて出かかれあつたる親向
新装を服し三季の表をばと云う
親向の勅向のときにかたを親向
の勅向のときにかたを親向 師は事あるに

よくよく志を定めて、あやうき事上西の海
抑りりくと養つたつる所、かくるふ、昔々も成
長し、実の物、人問とあか、学問の事、
しきく、時をまつ、まも、やかい、うれい、
なま、く、あま、と、彼、行、成、就、を、ぬ、ま、ま、あ、ま、ま、と、し

吾嘗終日不食、終夜不寢、以思、無益、不知學。

孔子曰、何、一晝一夜を食ひ寝て、考ふのみ
と、考ふのみ、只考ふを、うに、こ、地、行、を、是
非も、先王、聖人、の、道、を、た、た、り、ま、ま、に、ゆ、め、
學而不思、則罔、思而不學、則殆。

學問して、こ、う、い、を、り、あ、ま、い、こ、ま、多、好、り、あ、い
たり、こ、ま、ま、事、を、考、ふ、は、學、問、地、は、あ、ま、
か、こ、た、で、考、を、の、う、に、ま、ま、と、學、問、を、た、た、れ、は、考
を、う、い、か、あ、ま、と、い、ん、と、し

學如不及、猶恐失之。

學問、あ、ま、ま、い、つ、ま、も、ま、だ、く、と、あ、ひ、く、
彼、行、を、ま、ま、事、に、あ、ま、い、ま、ま、と、ま、た、い、い、ま、
ま、ま、と、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、中、庸、に、ま、ま、
十、能、之、已、百、之、人、百、能、之、已、千、之、と、ま、ま、い、ま、ま、
一、よ、誘、書、を、ま、ま、人、十、人、ま、ま、い、ま、ま、い、ま、ま、

正ねは百金とよむべし人百金とよむ
そんじふは己の才は子遍とよむべし
うもおのるべし

篤信好學守死於善道

極く志んをこより古聖人を信仰し
道にまづれぬ振ふ
食無求飽居無求安敏於事而慎於言就
有道而正可謂好學也已

多物と十分にたぐよむとおもふは信右といふ

くまをたきしとおのをもて物をとる
しとてしとにふりてしと
こくりたより手おし
とて物へ又欲訥於口而敏於行
口をたしほしとておのりてしと
まじしとよむべし

士志於道而耻惡衣惡食者未足與議也

士たる者は是れ乃ちよらば學問をねた
らぬをうたひに衣服のいかにあは
ることをうとわぬはあはるをうたはぬ

其言之不怍則為之也難。

吾身自慊大言をいふは恥と物言ふは恥
口を閉ぢたれば恥ある事あり又恥
其言而過其行もいひくおはぬのより
恥をさすは恥ありあはれをいふは恥あり

躬自厚而薄責於人則遠怨矣。

己の身たごつたをいふは厚く己を
たごつたはたごつたは己の行をいふは
人たごつたは己をいふは己の行をいふは
己の行をいふは己の行をいふは己の行をいふは

不恒其德或承之羞。

不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞
不恒其德或承之羞

譬如為山未成一簣止吾止也。譬如平地雖覆一篑進吾往也。

譬如彼行するは築山をつくと同く山をつ
よつくと土をまゝのびはきたる今一荷

にくしよなるを三時に成るやめども己の心
やめし学問彼行 習行をくくおしめ成
就をもとしめあきて 廢棄をももて五心の
そしきとあしきや 又たよく五徳を
低ある沈而を好まざんや 居く一荷は
土をまきくを海の地をいあふりとも
あはれもいりあふり 一つはく是れ
とおふに彼よふはあはれし多し
居くまきくはあふりたるも
くく志あはれしとあふりし
彼よふはあはれしとあふりし

ちるはけりてたよく首好く山を築きたり
とも一荷のあふりたるは
ら須学問彼行積りしも今りたる
にくやむねは徳の出まねし
皆吾心ひらきしりあふりを堅固に
彼行をよとせ

志於道 據於徳 依於仁 游於藝

ぬきたる者い先王聖人の道をあふりし
うく信仰して学問し 得てく徳をつら
すくあふりたるをかきしるは仁

を同書と一始終に小を分収ぬ振行一六藝
能中下分収優勝と一の意と也

右論語に出る所を摘一一二結大略
なりと一と名教の底大なる物なり
自得のありとされ其美を言ふと何
と云ふ勉旃勉旃



